

様式1

令和2年度 学校評価表

学校教育目標	学びをつなぎ 豊かに表現し よりよいものを 主体的・協動的に求め続ける 三幸っ子の育成 ～ 日々のひたむきな教育活動を通して ～
--------	--

a ミッション	組織的なカリキュラム・マネジメントの機能化による教育活動の充実	a ビジョン	・子供の夢や希望の実現に向け、ひたむきに取り組む学校 ・日々の実践を丁寧積み上げる学校
---------	---------------------------------	--------	--

尾道市立三幸小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 h 達成値	i 評価 h 達成	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案		
				80	85	100	イ		ロ	ハ					
予測不能な社会を生き抜く児童の育成	「主体性」「表現力」「協働性」の着実な向上 (自ら進んで学び豊かに表現する姿)	○授業改善 ・学び合いが活性化する指導 低学年：ペア交流（伝え合い） 中学年：グループ交流（質問力） 高学年：アクティブ交流（応答力）	○標準学力調査の思考力・表現力を問う問題で全国平均+5ポイント以上 (1・2学期は、学期末テスト)	80	85		A	1学期末テスト国語科は全校平均が81.5点で算数科が88.7点であった。2教科の平均点が85.1点で、辛うじて目標値は達成できているが、学年間のばらつきや格差が生じている。取り分け、国語科の言語面の課題が大きい。単元末テストでは、書けた漢字も1月以上期間を空けてテストを実施すると書けない児童がいる。漢字指導を文字指導だけでなく、語彙を増やす、豊かにする指導へと変えていく必要がある。また、1学期十分保障出来なかった交流場面の設定を考え、明確に伝える力を付けたい。	3	イ	ロ	ハ	コロナウイルス感染拡大防止対策で意見交流の場や協働の場の設定が困難な状況だが、オープンスペースを活かして三幸らしい学びの活性化を図ってください。 振り回り達成値87%はすばらしい。 ルーブリック評価はレベルごとに目標ゴールが明確に示され、児童の意欲が高まっています。	言語学習の習得に向けて、チャレンジタイムや家庭学習などの取組を見直していく。漢字の学習を文字指導から語彙を増やす指導へと切り替え、授業内での言語学習を充実させていく。 1学期に十分行えなかった交流場面を充実させ、友達の意見から、新たな考えを発見したり、よりよいものを創り上げたり、学びを広げ、深めるものにしていく。	
		○学びに向かう意識の向上 ・振り返りの徹底と充実 ・主体性、表現力、協働性にかかるルーブリックによる評価	○視点に沿った振り返りができている児童80%以上 (教師アンケート)	80	87		100	A					授業の振り返りの観点を低中高学年用で作成し、児童ひとりひとりにカードを持たせている。昨年度から継続して取り組んでいるので、児童も振り返りの視点をともに記述する様子が見られる。また、定期的なノート交流を行うことで、学年の系統性が分かり、他学年の取組状況を確認することができている。また、算数掲示版に各学年のノートを掲示することで、どのようなノートを目指すのか視覚的に理解でき、児童のやる気にもつながっている。	各学年のカリキュラムマップに赤線で他教科とのつながりが示され理解しやすい。「学びをつなぎ、自ら探究しようとする姿」は臨時休業中でも伸長され、「マイチャレンジ」として積極的な取組になっていた。今後も一人ひとりの自己肯定感が高まるカリキュラムの実践を期待します。	「学びをつなぐ」アンケートをもとに、異学年交流をさせ、他学年の取組から学ばせる機会を計画的に設定する。掲示版「学びをつなぐ」コーナーを児童の言葉で書かせたり、月ごとに振り返ったりすることで、より児童に意識させていく。定期的な研修を行い、カリキュラム・マップの見直しや各学級の取組を交流していく。
		○カリキュラムマップの作成と活用 月1回以上の実施 (教師アンケート)	○教科横断的なカリキュラムの実践 ・言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を活用したカリキュラムの作成	100	100			100					A	年度始めに、各学年でカリキュラム・マネジメントの予定表を作成し、それをもとに授業実践を行っている。予定表を作成することで、予め授業準備ができ、児童にも分かりやすく伝えることができています。 今年度は、「学びをつなぐコーナー」を各教室に掲示し、学校全体で統一した取組をしている。異学年交流をすることで、教科横断的なカリキュラムについて教師も児童も理解を深めている。	「学びをつなぐ」アンケートをもとに、異学年交流をさせ、他学年の取組から学ばせる機会を計画的に設定する。掲示版「学びをつなぐ」コーナーを児童の言葉で書かせたり、月ごとに振り返ったりすることで、より児童に意識させていく。定期的な研修を行い、カリキュラム・マップの見直しや各学級の取組を交流していく。
統一感・一体感のある学校体制づくり	危機意識を持ち、知恵を出し合い、よりよいものを求め続ける教職員 (よりよいものを求め続ける教職員の姿)〈働き方改革も含む〉	○組織の決め事を取組の差なく実践 ・統一感・一体感のある組織体制の確立	「安心して学校に通わせている」と肯定的評価をする保護者90%以上 (保護者アンケート)	90	96		C	業務改善の知恵袋の研修を月1回実施し、教職員から出た意見を取り入れながら業務改善を行うことで、子供と向き合う時間を確保している。 保護者アンケートで「安心して児童を学校に通わせている」の項目において96%の家庭に肯定的評価をいただいた。 また、今年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休業もあり、保護者の方の不安や心の底の部分の思いもしっかりと受け止めていく。時間外在校時間については、教職員ひとりひとりが目標時間を設定したが、達成できた教職員は36%であった。時間設定の時間の在り方や評価方法を見直す必要がある。	3	イ	ロ	ハ	HPや学級通信などを通して、学校の様子を常に発信していく。組織での決め事を徹底させ、今まで以上に保護者に安心していただけるよう教職員の共有化を図っていく。時間外在校時間の取組については、評価指標を自己目標達成または前月よりも時間が減少した職員割合に変更して取組を進めていく。		
		○業務改善の推進による子供と向き合う時間の確保 ・月1回は業務改善の知恵提案・実施（働き方改革への意識改革）	時間外在校等時間の減少	100	36			69					C	学校に対する保護者の肯定的評価96%は先生方の丁寧な取組の成果です。不安の多い時期ですが引き続き細やかな連携を望みます。 業務改善においては、加配の先生方と協力・業務改善の知恵を出し合い、健康的な日々の活動となるよう在校時間減少に努めてください。	

【自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成)
C: 60≦(もう少し) < 80

B: 80≦(ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。